

- 本地域は八郎潟干拓地にあり、平成19年度、大潟村の全農業者を構成員として、大潟村大潟地域農地・水管理保全管理協定運営委員会（以下「大潟農水環委員会」という。）が組織された。
- 地域の交流を活性化し、共同活動への地域理解の増進を図ることを目指し、令和6年度から新たに社会福祉サービス事業所「大潟つくし苑」、「農福連携サポートつくし」、園幼保連携型認定こども園「大潟こども園」と連携し、サツマイモの栽培とサツマイモを使った製菓の取組を実施。サツマイモの収穫時には、総勢50名超が参加。
- 大潟農水環委員会、大潟つくし苑等双方において今後の活動の更なる展開への期待感につながっている。

【地区概要(R6年度時点)】

- ・取組面積 11,480ha
(田 11,131ha、畑 349ha)
- ・参加集落 1集落
- ・資源量 農道438.5km
- ・主な構成員 農業者、自治会、婦人会、子供会、土地改良区、JA、学校、PTA、
- ・交付金 約196百万円

ー 連携がうまくいっているポイントは何でしょうか。

(委)「サツマイモの栽培とサツマイモを作ったお菓子作りということで、具体的な活動内容を示しながら提案しました。」

(つ)「提案いただいた活動内容は既に大潟つくし苑で行っている作業内容の延長で行えるものだったので、うまくマッチできたと思っています。これまで施設でやったことのない新たな作業であれば、もう少し大変だったのだらうと思います。」

ー 連携によってどのような変化がありましたか。

(委)「これからも『変えていきたい。もっと別の交流もしていきたい。』という気持ちが大きいんです。

現在はシルバー人材にお願いしている年間を通じた栽培管理の作業もこれからは大潟つくし苑にお願いしていきたいと考えているんです。どうですかね。」

(つ)「できると思います。施設としては、利用者さんに様々な生産活動機会を提供することが必要なのですが、大潟農水環委員会さんとの連携によって新たな作業の選択肢が増えたのでありがたいと思っています。今年は、利用者さん方から『そろそろサツマイモの時期だね』といった(楽しみにする)声も聞こえてきています。」

(委)「大潟つくし苑さんともう少し何かできないか検討していこうかと思っています。多面的機能支払は草刈り等がメインの活動なんですけど、こういった連携活動が村の広報誌の表紙で取り上げてもらえると、多面的機能支払ってこういうこともやっているんだなと多面的機能支払の活動全体への地域の理解増進にもつながっていくと思っています。」

ー 農福連携を考えている他の地域へのメッセージなどいただけますでしょうか。

(委)「地域によって環境も状況も違うので、それぞれの地域でできそうなことは何だろうかと考えていくということだと思います。」

(つ)「施設が『何をしているところなんだ』という情報が近隣住民になかなか行き届かないことも多いと思いますが、交流によって知ってもらえることにもつながっていくのではないかと思います。何をしているところなのか知ってもらえれば、その先の更なる連携活動もうまくいくのではないかと思います。」

(委)：大潟農水環委員会

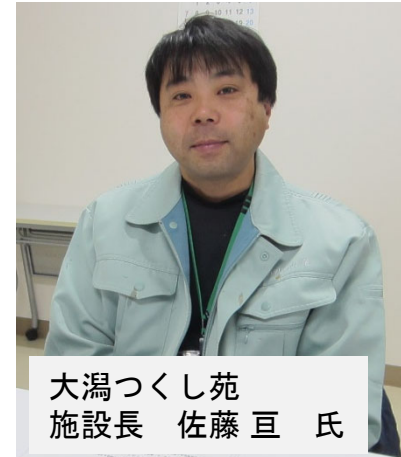
(つ)：大潟つくし苑



大潟農水環委員会
佐野 秀明 氏



大潟農水環委員会
三戸 悟 氏



大潟つくし苑
施設長 佐藤 亘 氏

連携のきっかけ（R5）

- ・大潟農水環委員会では、前身制度創設時の平成19年度から活動を開始。平成26年度から「多面的機能の増進を図る活動」（増進活動）にも取り組んできた。
- ・地域の交流を活性化し、共同活動への地域理解の増進を図ることを目指し、増進活動として地域内の福祉施設等との連携を検討。

Step 1（R5）

取組内容の調整

- ・県の多面支払の担当に大潟つくし苑、農福連携サポートつくし、大潟こども園等との連携の構想を相談。県からは良い取組だと後押し。
- ・大潟農水環委員会から大潟つくし苑等に活動内容案を示し、連携を提案。協定に参加する形で調整し、総会で合意形成。

Step 2（R6）

取組の実施に向けた準備

- ・サツマイモ栽培用に集落内の農業者から稲の育苗ハウス半棟ほどのスペースを借りる調整。
- ・サツマイモ栽培に関する技術的指導ができる方の派遣をシルバー人材センターに依頼。
- ・マイクロバスを借り上げ、大潟こども園から育苗ハウスまでの園児たちの移動手段等を確保。

大潟つくし苑、サポートつくしの概要

- ・平成20年に大潟村で開所し、生活介護と就労継続支援B型の事業を実施。近隣市町村と村内の利用者が通所。就労継続支援B型では、製菓作業、農作業等の作業機会を提供。
- ・令和元年に大潟つくし苑から分離する形で「農福連携サポートつくし」を開所。農福連携に特化し、地域の農業者とともに農作業に従事できる作業機会を提供。

みんなで耕そう！

ノウフク

NOUFUKU PROJECT



（左）コミュニケーションが少し苦手な利用者さんも、農福連携サポートつくしの支援員のサポートにより安心して畝作りの作業ができています。



（上）サツマイモの定植では、園児たちと農福連携サポートつくしの利用者さんが交流する姿もあり、にぎやかな雰囲気で行われました。

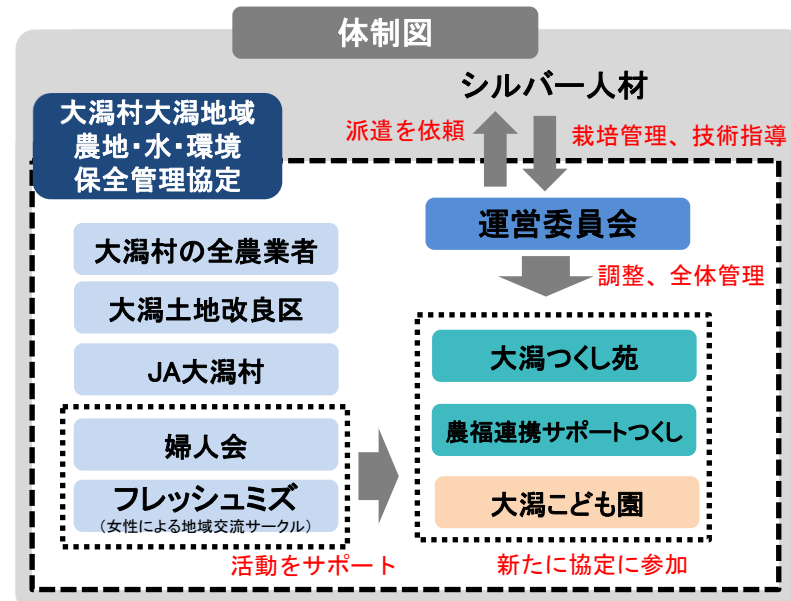


（上）収穫したサツマイモでクッキーやスイートポテト等の焼き菓子を製造。園児たちにも喜ばれています。

【主な交付金の使途】

- ・参加者への日当の支払
- ・土地の利用料、苗代
- ・バスの借上げ、保険

体制図



Step 3（R6）

初年度の取組

- ・畝作り、サツマイモの定植、収穫の年間計3回の作業に、農福連携サポートつくしから利用者2～3名と支援員1～2名が参加。支援員が間に入る形で、シルバー人材の指導の下作業を実施。
- ・定植及び収穫作業には、農福連携サポートつくしのほか大潟こども園の4歳児クラス約20名と教員も参加。婦人会等も参加し、園児たちの作業をサポート。
- ・収穫したサツマイモは、大潟つくし苑でペースト状に加工して冷凍保存。大潟つくし苑において作業時期を調整しつつ製菓作業を行い、大潟こども園に配布するとともに道の駅、スーパー等に納品。

Step 4（R7）

今年度の取組

- ・昨年度に引き続き取組を実施。
- ・大潟村広報誌にも取り上げられ、地域の活動として定着しつつあると実感。



今後の展望

- ・現在はシルバー人材に依頼している年間を通じたサツマイモの栽培管理についても、今後は農福連携サポートつくしが行い、連携活動の回数を増やしていく予定。
- ・サツマイモの栽培以外にも新たに連携した活動を実施できないか模索していきたい。